

2 分析結果の要約

分析 1

「基礎・基本」定着状況調査（教科の基礎的・基本的な学習内容の定着状況）

- 基礎的・基本的な学習内容は、おおむね定着している。
- 小学校国語「書くこと」、小学校算数「図形」の領域の定着が不十分である。

全国学力・学習状況調査（教科に関する調査の結果）

- 小学校は、すべての教科において、平均正答率が全国平均を上回っている。
- 中学校は、国語、数学は、全国平均並みであるが、理科については、全国平均を下回っている。

分析 2

平均通過率の高い学校で行っている指導や研修

- 既習内容の活用、他の文章や資料との比較、見通しや予想など、考える方法を教える指導に重点を置いている。
- 結論先行型で、根拠を挙げて自分の考えを述べたり書いたりする指導に重点を置いている。
- 思考力・表現力の育成に焦点を当てた研修を行っている。
- 「基礎・基本」定着状況調査報告書の指導改善事例を活用した授業研究を行っている。
- 「基礎・基本」定着状況調査報告書の分析を活用して自校のデータを分析・考察する研修を行っている。
- 外国語活動（外国語（英語））の指導について、中（小）学校と連携している。
- 予習や復習の仕方など、家庭学習のやり方について指導をしている。

分析 3

通過率 30%未満の児童生徒の状況

<国語>

- 小・中学校とも「書くこと」の領域が最も低く、中学校では、県平均との差も最も大きい。

<算数・数学>

- 小学校では「数量関係」の領域が最も県平均との差が大きいが、中学校では「数と式」や「図形」の領域で県平均との差が大きくなっている。

<英語>

- 「話すこと」の領域は、他の領域と比較すると高く、県平均との差も最も小さい。
- 「書くこと」の領域は、通過率が最も低く、県平均との差も大きい。

分析 4

質問紙調査結果の概要

- 児童生徒の意識・実態、学校の指導内容・方法は改善されているものが多い。
- 「毎日朝食を食べています。」と回答した児童生徒の方が、通過率が高い。
- 家庭学習に関する設問については、学校の指導と児童生徒の回答状況に 30 ポイント以上の差がある。

分析 5

3年間、通過率が県平均以上の学校の取組

- 既習内容の活用、他の文章や資料との比較、見通しや予想など、考える方法を教える指導に重点を置いている。
- 結論先行型で、根拠を挙げて自分の考えを述べたり書いたりする指導に重点を置いている。
- 思考力・表現力の育成に焦点を当てた研修を行っている。
- 「基礎・基本」定着状況調査報告書の分析を活用して自校のデータを分析・考察する研修を行っている。
- 各教科等のねらいを達成するために、授業において、言語活動を充実している。

分析 6

学習内容の定着状況に改善が見られる学校の取組

（平成 23 年度「基礎・基本」定着状況調査結果と平成 24 年度全国学力・学習状況調査結果との関係）

- 思考力・表現力の育成に焦点を当てた研修を行っている。
- 小学校では、
- 「基礎・基本」定着状況調査報告書の分析を活用して自校のデータを分析・考察する研修を行っている。
 - 校内で推薦図書の一覧を作成し、児童に読書をすすめる取組を行っている。
- 中学校では、
- 既習内容の活用、他の文章や資料との比較、見通しや予想など、考える方法を教える指導に重点を置いている。
 - 予習や復習の仕方など、家庭学習のやり方について指導をしている。